

市長	副市長	部長	課長等	リーダー	担当	供覧	報告者
第5回養父市振興計画審議会会議録							
期 日	平成22年3月9日(火) 午後1時30分～4時						
場 所	養父市立大屋市民センター 2階会議室						
出席並びに欠席委員 出席22名 欠席3名 凡例 ○:出席 ×:欠席	委員氏名		出欠等	委員氏名		出欠等	
	会長	荒田幹夫	○	委員	仮屋美子	○	
	副会長	大林賢一	○	委員	宇都良栄子	○	
	副会長	正垣道子	○	委員	梅井逸郎	○	
	委員	池田和揮	×	委員	村上隆司	○	
	委員	山下邦子	○	委員	田渕久和	○	
	委員	雑賀 学	○	委員	吉田明博	○	
	委員	圓山 光	○	委員	米田一之	×	
	委員	松岡 勇	○	委員	池田ビルギット	○	
	委員	田中今子	○	職員委員	満田理恵	○	
	委員	田村 譲	○	職員委員	奥藤 啓	○	
	委員	山根美智子	○	職員委員	井平 聡	○	
	委員	小松原貴美子	×	職員委員	塚本 竜	○	
	委員	藤原光子	○				
アドバイザー	松原永季・スタジオ・カタリスト代表取締役					○	
事務局	政策監理部長	児島一裕	×	企画政策課主査	田村光司	○	
	企画政策課長	阿部 稔	○	企画政策課主査	岡 和昭	×	
	企画政策課副主幹	藤野英希	○	企画政策課主査	安達洋道	×	
<p>1 開会 (大林副会長)</p> <p>2 あいさつ (荒田会長) 国が繁栄するのは中心から繁栄し、周辺へ広がっていく。衰退は周辺から始まる。養父市を元気で住みよいまちにするには、養父市の中心地からではなく、周辺地が活性化するような策を考えなければならない。その結果として、市全体を活力あるまちにすることになる。ゼロから発想し、マイナスと思われるものを資産と考える。山椒は小粒でもピリッと辛いというようなまちとなる、道しるべのような計画にしていきたい。</p> <p>3 進め方の説明 (松原アドバイザー) 前回、グループで考えたことをもう一度整理する。今までの計画とは違う考えが表れている。大きな柱の位置づけを行い、分かりやすく伝える言葉を考える。</p> <p>4 前回の振り返り (松原アドバイザー) 別紙の「養父市の望ましい将来像を組み立てる」により、前回のまとめを振り返る。</p>							

5 総合計画の柱を考える

(松原アドバイザー) 「安心」、「活力、はたらく場づくり、The money、ふるさと力、地域資源を活用した産業」、「快適、資源力、資源の活用」、「人づくり、子育て環境日本一、子育て、教育環境、人間力」、「生きがい・楽しみ・誇り、伝統・高齢者の力」、「行政改革の推進」の6つの柱が分類される。この6つに分類することについてどう思うか。

(委員からの意見)

- ・ 2つか、3つに絞った方がいい。6つは多い。
 - ・ 総花的になり、あれもこれもで、何ができるのか。
 - ・ 前回の計画は当時としてはよかったが、今では古くなっている。もう一度、分類し直した方がいい。
 - ・ 完璧主義ではなく、8割程度のできでよいのではないか。
 - ・ 柱は大きく、分かりやすくする。柱の整理が必要。
 - ・ 言葉は選び直さないといけない。
 - ・ 柱は絞っても、施策に含める。
 - ・ 今では、どの柱にどの事業をもっていくのか迷う。分かりやすく、お子さんからお年寄りまで分かるようにする。
 - ・ なぜ、前回は5つの柱だったのか。
- 前回は、合併してすぐだったので、旧4町を網羅して、理想のまちづくりを考えた。また、16年度に大災害があり、「安心」が一番に出てきたこと。また、行政改革大綱もできたことが影響している。
- ・ ありきたり過ぎる。養父市独自のものができればよい。
 - ・ 人づくりが柱に追加されており6つでいい。
 - ・ 行政改革は柱立てする必要はなく、それぞれの柱の中に入り込まないといけない。
 - ・ 今までは、予算を削るための行革だったが、目指す目的を達成するために、すべてのことを行うのが本来の行革である。
 - ・ 安心、活力、快適は分かりにくい。
 - ・ 施策の表現が柱になれば分かりやすい。
 - ・ 今後、高齢者は増え、老後の暮らしに不安がある。5割が高齢者となるので、安心して暮らせる施策を考えなければならない。
 - ・ 政策を整理してから、柱を考えた方が考えやすい。
 - ・ 絞りすぎると、子どものことも、高齢者のことも一緒になってしまわないか。

6 テーマを説明する文章やキーワードの検討

(松原アドバイザー) 養父市の将来をどのようなまちにしたいかを定める。目指す姿をつくるための言葉を検討する。

※ 委員ごとに養父市をアピールする言葉を考え発表。発表したカードは、同種類に固める。

(松原アドバイザーまとめ) 「高齢者がいきいきと暮らせる」、「教育、生涯学習(子ども、子育て、高齢者、教育)」、「みんなが主役のまちづくり、快適で活力ある人づくり、まちづくり(共生、コミュニティ、緑あふれるまち、ボランティアのまち)」、「活力、経済(みんなが毎日仕事できるまち)」のグループに分けられる。このグループから言葉を選び、文案として整理したものを、次回提案する。

7 閉会

(正垣副会長)